

創作 制作活動

こけしの絵付け

19

1 活動のねらい

こけしの木地（鳴子こけし）に絵付けを行い、伝統こけしの良さと、ものづくりの楽しさを味わいます。

2 育てたい能力

C3 野外技能・生活

B2 自然への関心

※Aは心理的・社会的能力 Bは徳育的能力 Cは身体的能力 詳細は別紙参照

3 活動場所

・クラフト室 ・研修室 等

4 活動時期

通年

5 所要時間

2時間

6 指導形態

団体の引率者が指導者となって行う活動

指導者を紹介できる活動

[講師1人当たり8,800円 講師1人につき参加者50名程度まで]

7 準備物

【団体・個人で準備するもの】

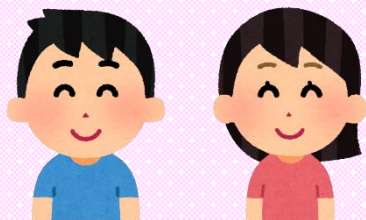
- ・絵付用白木こけし（食堂売店で購入可 1体470円）
- ・活動に適した服装 ・新聞紙 ・布きれ ・筆記用具

【自然の家で貸し出しできるもの】

- ・絵付用筆 ・絵付用皿 ・染料 ・ろう

8 活動の手順

①人数確認、服装の点検、健康状態のチェックをします。



②活動のねらいや手順、注意点を説明します。



③用具を準備します。

新聞紙を敷き、色ごとの筆、小皿を3枚ずつ配り、染料をほんの少し入れます。



④顔を描きます。

まゆ毛、まつ毛、目、鼻、口、びん（もみあげ）



- 絵付をする時は、頭部と胴部の接合部分を持ちます。
- 口は小さく紅で描きます。
- びんは内側から外側へ描いていきます。→

⑤頭を描きます。

前髪、後ろ髪、かんざし



- かんざしは紅の染料を使います。
- 黒の染料が乾いてから着色します。

⑥胴を描きます。

菊模様、葉



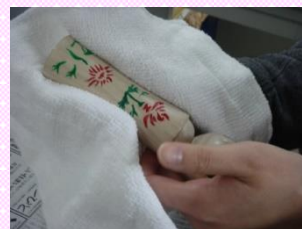
- 鳴子こけしのどうも要は、菊を中心としたものが基本です。
- 花は紅で中心に向かって筆を運びます。
- 葉は緑の染料を使います。

⑦ろうをぬります。



- 染料が乾いてから、全体に均一にぬります。
- ろうをぬると染料をはじくので、ろうぬり後は着色できません。

⑧布きれで光沢が出るまで磨き、完成です。



⑨後片付けをします。

※必ず引率者が立ち会ってください。

⑩活動場所の掃除をします。事務室へ活動終了の報告をします。

（破損等があれば事務室にご連絡ください。）

9 留意点

- 活動に使用した道具は、責任をもって返却してください。
- 染料は手や衣類などに付くと落ちづらいので、気を付けてください。
- オリジナルの絵を描くこともできます。
- 下書き用紙もあります。必要な時は事務室でお渡しいたします。
- 作品を持ち帰るための、ビニール袋などがあると便利です。

10 参考

◎こけしの歴史

東北の温泉地で江戸末期から大正初期にかけて湯治客にお土産として売られた木製の人形玩具が始まりで、木地師（きじし）と呼ばれる人達がろくろを回し、木を削って作りました。

◎鳴子系こけし

鳴子こけしは、胴が太く、肩と襟が張り、中央部がややへこんだ安定感のある形状で、頭ははめ込みで、回すとキイキイと鳴るのが特徴です。